冨士見百圖

初編

198

昭慶門院の御屏風。押色紙に和歌あれバ。富士を
繪く事世に古し。建永の比。最勝四天王院乃
御障子にも。此山を描しめられ。東福寺の
虎関和尚。扇面水底富士の五絶の詩あれバ。五明
に写す事久し。雪舟の一幅ハ。唐人の讃も有て。その
名山と世に賞して妙なりといふとも。いづれも一山にて
また補景ハ三保乃田児の浦。今まで奇しくなかりけれど

以前大雅堂が百富士と近年にありて北斎翁の富
嶽百景あり。精細の趣を変遷をふ取を異にし作不二
画此ふ素ぬとぞかゝる程いと繁め一ある風韻あく感ずるを
両己まて素人の覧ハ届かず一ある洒落を遺。逍遥あれ
どる理屈ハいかとゞかん。此百図ハ倣顰らしく
倡する光景もあるひせよ平と走る変眺望の真に遷り。
且実際は西画を描されが対へある同代悦びし発

臨まば規模となりんに足り譬へば君錫子ハ真にまく
此富士のる州の膽あり行しまへ云子のる行にして
固しく四度解なりし所聖人の所謂中庸の中ある
天下乃大本なれどもまた中形にて机上にかは空しき
らば是も一の利徳あらんと需に応じて端書するハ

乙未新春

にのうち草紙

柳亭仙果

不二山号之起原

竹取物語より

葛飾の卍翁先に富嶽百景と題して一本を著すこは翁が
例の筆才にて草木鳥獣器財のたぐひ或は人物都鄙の
風俗筆力を尽し絵組の妙をあらはさんとして
不二は其あしらひなるもの多し此図は夫と異にし
て予がまのあたりに眺望せしを其侭にうつし置
たる草稿を清書せしのみにて小冊の中に世に見えざ
れば極密なるを写しかつ略せし処も多けれど図にては
全く写真の風景にして遠足(えんそく)なき人のために一時の
興に備ふるのみ筆の拙なきは申すもし絵く

立齋誌

武蔵
本牧

武蔵
加奈川
海之
芝村
横浜

東海道
大森縄手

東海道
南湖之松原
左り不二

木曽海道
塩尻峠

信州
諏訪湖

東都隅田堤夕景

駿州三保之松原

九

甲斐
犬目峠

甲斐
大月の原

東海道
箱根湖水

相州三浦
秋屋の里

下總
藤塚
桃園

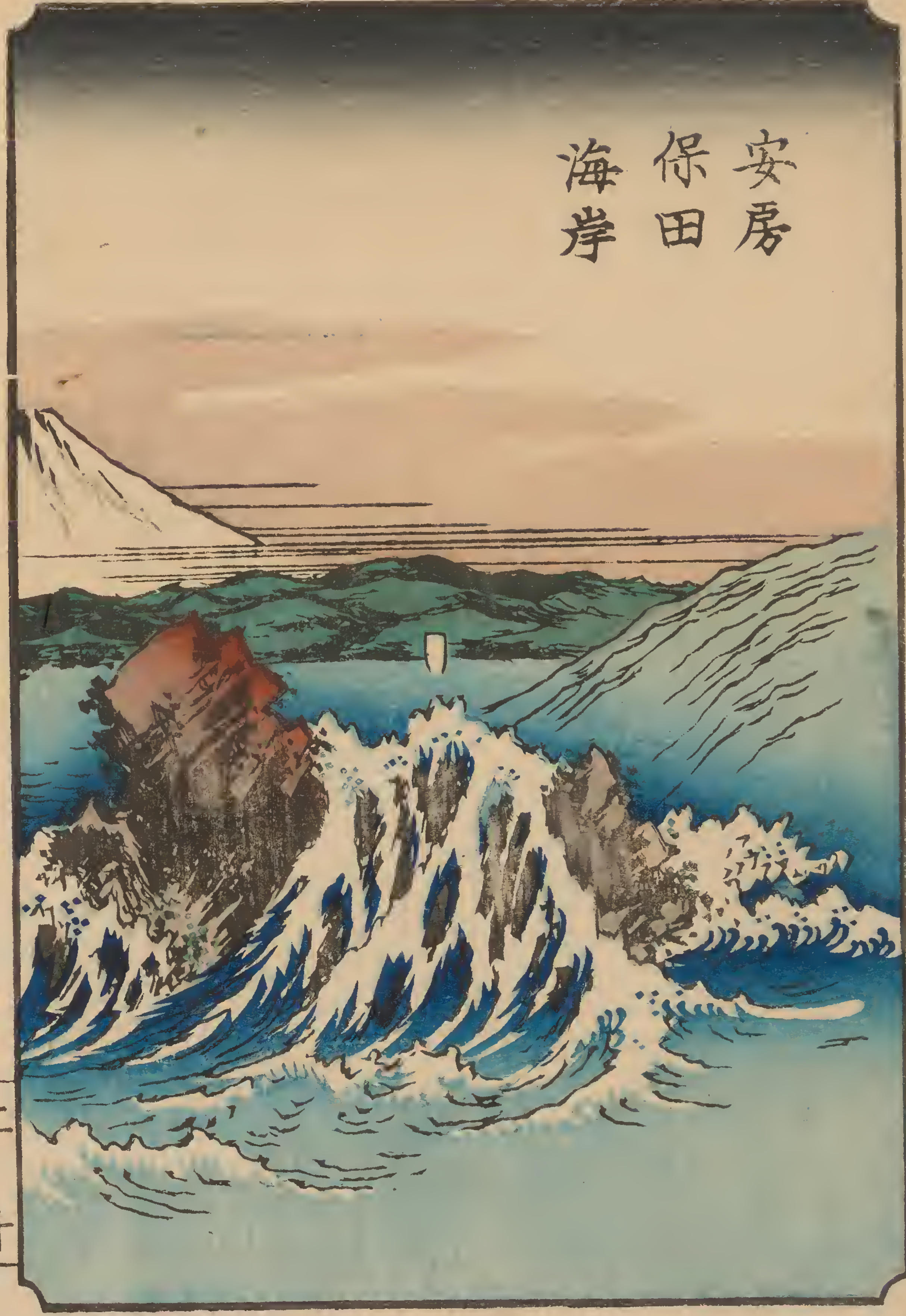
十五

下總・堀江
猫實

上総天神山
海岸

武蔵
小金井堤

十九


安房保田海岸

206
12.00

Hiroshige
Fujimi Hyakuzu

二十一